

【論文】

ウイグル族都市社会における「チャイ(chay)」の意味 — 第三の場所と社会関係資本の視点から —

シャチクリ・メルシャト

I 研究の目的と方法

本研究の目的は、中国・新疆ウイグル自治区の首府ウラムチ市において近年流行している「チャイ(chay)」という習慣を取り上げ、そのウイグル族都市社会における現代的意味を探ることである。チャイは、もともとウイグル族の民族的な文化に根ざす慣習であるが、現代都市の日常生活における人々の社会的ネットワークの構築の場になっている。チャイの参加者には特に女性が多く、チャイ文化は現代のウイグル族都市社会の女性の間のネットワーク構築と強く関係している。しかし、それらについての研究はほとんどなされていない。

チャイは、ウイグル語で「茶」を意味するが、単に飲み物としてのお茶や、お茶会のことだけを指すのではなく、独特の深い文化性を含んでいる。現代のウイグル族都市社会で流行するチャイを、筆者なりに定義すれば、「固定的なメンバーが定期的が集まって、もっぱら家・職場以外の場所で、会費制で行われるお茶会」であり、また「そこでさまざまな関係性がつくられる場所」でもある。現代のウイグル族都市社会におけるチャイと、私たちが日常行なうお茶会とは、メンバーが固定されており、定期的に、会費制で行なわれるという点が異なる。

本稿では、文献資料のほか、フィールドワークを主な研究方法として用いた。ウラムチ市において、様々な職業のウイグル族女性と男性にインタビューし、質問紙調査も行なった。それに加えて、自らチャイに参加し、チャイを行う宴会場を訪問するとともに参与観察を行なった。フィールドワークは、主に2015年3月1日～2015年3月20日、2015年12月19日～2016年1月5日の2回にわたり、ウラムチ市において行なった。上記のフィールドワーク期間以外にも、筆者が縁をもつ相手の協力を得て、電子メールなどを通じて補足調査を行なった。

II 研究の枠組み

現代ウイグル族都市社会のチャイ文化の隆盛を分析する枠組みとして、本章では、「第三の場所」および「社会関係資本」の概念を検討してみたい。

1. 「第三の場所」

都市社会学者の磯村英一は、『人間にとって都市とは何か』(1968年)の中で、家庭(第一空間)、職場(第二空間)から自立した「第三空間」の発生に都市の本質をみてとった。「第三空間」とは、匿名的であるがゆえに家庭や職場の役割から解放されていて、より「自由」が味わえる空間である。しかし、「自由」とはいえ、秩序は生まれる。第三空間の発生は、都市人の社会圏の複数化ともバラレルであるが、単に生活圏が広がったという話にとどまらない。第三空間における相互作用は、きわめて選択性が高く、持続的な拘束力も弱い。それゆえに、そこは、演技が許容される場所であると磯村は論じている。

アメリカの社会学者レイ・オールデンバーグ(Ray Oldenburg)は、1989年に著書“The Great Good Place”の中で、家庭(第一の場所)でもなく、職場(第二の場所)でもない、「第三の場所」(サードプレイス)が社会的に重要な機能を担っていることを指摘した。「サードプレイス」とは、家(必要不可欠な第一の場所)と職場(必要不可欠な第二の場所)に加え、都市に暮らす人々にとっての「必要不可欠な第三の場所」を意味する。オールデンバーグは、サードプレイスの代表例として、イギリスのパブ、フランスのカフェ等を挙げ、それらが自由でリラックスした雰囲気での対話を促進し、都市生活における良好な人間関係を産み出す重要な空間であるとしている。都市には居住者にとって生活上欠かせない二つの居場所に加え、居心地の良い三番目の場所(サードプレイス)が必要であり、サードプレイスの在り方が都市の魅力を大きく左右すると、彼は主張する。

このように「第三の場所」とは、「家でも、職場でも学校でもない、行く必要はないけど、行きたい場所」である。チャイは、現在のウラムチ市における現代のウイグル族都市社会の第三の場所として機能しているということが想像できる。

2. 「社会関係資本」

「社会関係資本」の原語“Social Capital”には、種々の訳語がある。2001年に、日本で初めてパットナムの著

書を翻訳した河田潤一は、「社会資本」という訳語を使用した (パットナム 2001)。しかし「社会資本」は、日本語では産業・生活基盤など、社会のハード面のインフラの意味に誤解される恐れがあるため、その後「社会関係資本」という用語が定着するようになった (佐藤 2001)。

社会関係資本について、今日まで統一された定義は必ずしも存在しないが、その要件は、社会に存在する「個人や集団間のネットワーク」、社会関係のなかに存在する「信頼」や「規範」といった「目に見えないモノ」に着目し、これらが社会の成長、発展、開発にとって有用な「資本」となるという主張にあるといえる。

現代のウイグル族都市社会のチャイに関して言えば、家庭でもない、職場でもない、「第三の場所」で行なわれるチャイが、「人々の交流」や「信頼」を強化することで、新たな社会関係資本を形成する契機になっているのではないかというのが筆者の仮説である。そこにはどのような背景が存在するのかを考察することが、本研究の目的とするところである。

III 対象地域の概要

中国・新疆ウイグル自治区は (図 1)、中国の西北部に位置し、首府はウルムチ市である。新疆ウイグル自治区の面積は166万km²であり、中国の総面積の6分の1を占め、省・自治区の中で最大の面積をもつ。ロシア、カザフスタン、キルギスタン、タジキスタン、モンゴル、インド、パキスタン、アフガニスタンに接し、古くから東西交易の重要ルートである。新疆ウイグル自治区は1955年に成立し、現在では47民族が居住する。

新疆ウイグル自治区の総人口は、『新疆統計年鑑2001』によると約1792万人である。その内訳は、ウイグル族826万人 (46%)、漢族702万人 (39%)、カザフ族128万人 (7%)、回族81万人 (5%) となっており、キルギス族、モンゴル



図1 新疆ウイグル自治区の位置

(中国・北京地図出版社 (1977) に基づき筆者作成)

族、タジク族が続いている。新疆ウイグル自治区の中心になる民族であるウイグル族は、トルコ系民族で、アラビア字母を基礎としたウイグル文字を使用し、ウイグル語を主な言語として使用する。ウイグル族はムスリム (イスラム教徒) で、豚肉を食べないなどムスリムの慣習を守り、自らの民族性を保ちつつ生活している。「ウイグル」というのはウイグル語で「連合・協力・団結」という意味を持っている。

ウルムチ市は、新疆ウイグル自治区の首府であり、東経87° 36′、北緯43° 48′に位置する。民族的な文化が存続している現代都市でもある。ウルムチ市の面積は11,440km²である。

ウルムチは、7つの区と1つの県で構成されている。それが天山区、サイバグ区、新市区、水磨溝区、頭屯河区、達坂城区、米東区、そしてウルムチ県である。その中で、チャイの会場となるウイグル族のレストランや宴会場の施設が多く立地するのは天山区とサイバグ区 (ウルムチ市の南部分) である (図2参照)。これらはウイグル族の多く住む地区であり、特に、天山区に集まっている。

2010年11月1日の国勢調査によると、ウルムチ市の常住人口は311万280人である。宮坂・服部 (2004) によると、首府ウルムチ市では、既に人口の73%が漢族であり、ウイグル族は13%である。2014年新疆統計年鑑では、ウルムチ市の人口は353万人で、そのうち女性人口は130.09万人であり、総人口の48.7%を占める。同統計で地区別人口をみると、天山区の人口は60.0万人であり、少数民族は24.8万人で、その中でウイグル族が17.8万人である。



図2 ウルムチ概略図

(「新疆ウイグル自治区測絵地理情報局」新S(2016)134号を基に筆者作成)

IV チャイの起源とその現代的展開

昔からチャイはウイグル族の日常生活と切っても切り離せない関係にあり、またお客様が来た時にもてなす際の主な飲み物でもある。新疆ウイグル自治区の気候は、年間を通じ非常に乾燥しており、主に肉を食べる生活の中で、チャイは体の脂肪を取る効果もあると言われ、ウイグル族の食文化の中で最も重要な地位を占めてきた「チャイから集まって、チャイから始めよう」という言葉に象徴されるように、チャイの習慣からウイグル族チャイ文化が形成され、日常生活では様々なチャイに関する言葉がある。

現代のウイグル族都市社会において、チャイは実際にどのように行なわれているのだろうか。筆者の体験に基づいて、その典型的な例を語ってみよう。

チャイに参加する人々（とくに女性たち）は、自分のよそ行きのきれいな服を着て、おしゃれに化粧をして会場に行く。チャイの会場は、ウルムチ市内のウイグル料理レストランの宴会場などが利用されることが多い。この宴会場は、ウイグル伝統的な調度や装飾が施され、ウイグル文化を感じさせる「場所」でもある（写真1, 2）。

皆が宴会場に集まり終わると、チャイが始まる。皆がテーブルに座ったら、毎回の主催者が頼んだ料理が出る。皆は伝統的なウイグル料理を食べながら、いろいろな話をする。話される内容は、ほとんどが自らの家庭、婚姻、子供、仕事に関する日常生活をめぐる会話である。1回のチャイの時間は、全部で3～4時間、長いときは6時間ぐらいになる。チャイが終わる前に、チャイ代を一人一人、最初に決めた会計担当者に出し、その担当者がまとめて主催者に渡す。毎回の会費（チャイ代）以外に、その日の食事代は皆で分割しチャイ代とは別に支払う。

こうしたチャイの多くは、月に一回程度の頻度で行われ、各回のチャイには、必ずメンバーの一人がホストを務める。たとえば、10人のグループのチャイであれば、一人が各回のホストとしてチャイを開催し、10か月程度で一つのチャイが一周することになる。メンバーは固定的で、一つのチャイができたなら、原則としてそのグループに参加する人数は変わらない。毎回のチャイ代の金額はグループによって多少異なるが、その金額はチャイグループを作る時に、みんなで相談し、決められたものである。

メンバーにとってチャイに参加することは、強い拘束力をもつ。例えば、もしメンバーの誰かがその日に用事があるって、そのチャイに参加できなかったとすると、同じチャイに加わっている知り合いのメンバーに頼んで、



写真1 あるウイグル風レストランの風景
(筆者撮影。2015年12月23日、ウルムチ市)



写真2 一つのチャイテーブル
(筆者撮影。2015年12月23日、ウルムチ市)

自分が行けなかった回のチャイ代も出すのが普通である。これは明確なルールではないが、チャイがもつ独特な関係性を示すものと言える。

現代都市のチャイは、家以外の場所で開催されることが多く、移動をともなうのも特徴である。伝統的チャイでは、ホストの家などで行なわれるというイメージが強かったが、現在では、家の「内」ではなく「外」に移動し、ウイグル族風のレストランや宴会場など、そのための独特な場所も作られている¹⁾。

V チャイの実態

1. チャイへの参加状況——筆者調査から

今回の筆者の調査では、スノーボール・サンプリング法を採用し、62名のウイグル族女性を調査対象とした(表1参照)。

それによれば、ウルムチ市のウイグル族女性たちのほとんどが一月に1回かそれ以上チャイに参加していることがわかる。

筆者の調査によれば、ウルムチ市でチャイに参加している女性たちは、働いて収入を得ている者が多く、それらの女性たちはほとんど教育程度が高い。

今回調査対象となった62名の女性の年齢構成は、図3

表1 調査対象女性の属性

No.	学歴	年齢	職業	月収(元)
1	大学院	30	病院勤務	10000
2	大学院	28	自営業者	5500
3	大学	26	会計担当	3000
4	大学院	31	医者	13000
5	大学院	29	公務員	5300
6	大学	60	エンジニア	4200
7	専門学校	53	小学校教員	4400
8	大学院	29	公務員	3000
9	大学	32	民間企業勤務	3200
10	大学	30	公務員	5000
11	大学	28	公務員	4000
12	大学	55	銀行員	5500
13	大学	57	大学教員	4500
14	大学	30	専門学校教員	4000
15	大学	30	中学校教員	2367
16	大学	29	住民委員会勤務	2200
17	大学	30	薬物検査技師(病院)	2500
18	大学	38	公務員	4800
19	大学	41	小学校教員	2800
20	大学院	31	大学教員	6000
21	大学院	29	医者	12000
22	大学	68	婦人連合会勤務	5000
23	専門学校	26	石油化学操作者	2000
24	専門学校	59	医務	6000
25	中学	45	ホテル従業員	2200
26	中学	不明	清掃員	1750
27	大学	30	医務	4500
28	大学	31	公務員	4100
29	大学	30	医務	4500
30	小学	35	小商品営業者	10000

31	中学	25	レストラン従業員	1600
32	小学	40	小商品営業者	5500
33	中学	45	レストラン従業員	1600
34	中学	50	退職	4000
35	中学	57	退職	3500
36	不明	53	介護士	2500
37	不明	56	不明	2600
38	不明	36	不明	2600
39	不明	55	不明	3000
40	高校	56	工員	3000
41	中学	57	工員	3500
42	不明	34	職員(勤務先不明)	3500
43	不明	56	不明	3600
44	中学	58	銀行員	4000
45	大学	56	公務員	5000
46	不明	40	会計担当	5000
47	不明	56	公務員	6000
48	専門学校	55	銀行員	6000
49	専門学校	59	医療機関	6000
50	不明	40	外企	7000
51	高校	54	自営業者	7500
52	不明	60	医療機関	7800
53	不明	54	軍事	10000
54	大学	55	公務員	10000
55	大学	54	医療機関	10000
56	中学	40	清掃員	1600
57	中学	45	清掃員	1600
58	中学	39	清掃員	1600
59	大学	27	住民委員会勤務	2300
60	中学	36	清掃員	1600
61	中学	42	清掃員	2300
62	中学	40	ドレスメーカー	3600

(1元=18円) (筆者調査より)

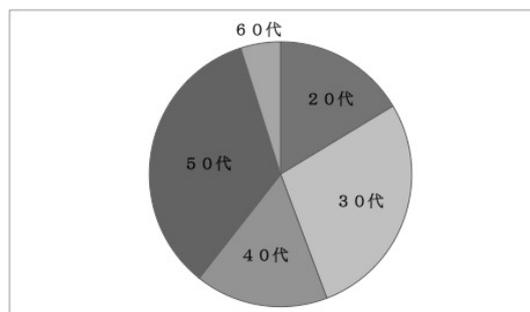


図3 調査対象女性の年齢構成

(筆者調査より)

に示すとおりである。このように、20代が10人、30代が17人、40代が10人、50代が21人、60代が3人であり、その中でチャイに最も多く参加している女性の年齢層は50代である。

今回の調査では、ウルムチ市のウイグル族女性たちのチャイへの参加状況は、図4のとおりである。

月1回チャイに参加しているという人が一番多かった。その次は、月に2、3回チャイがあるという人が多い。

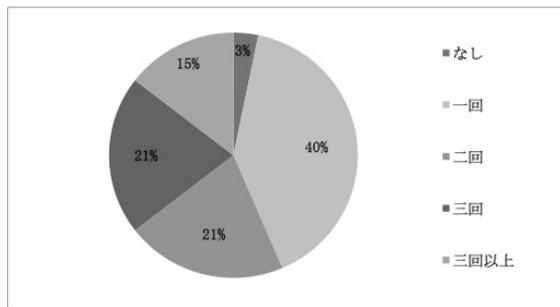


図4 チャイへの参加回数 (月平均)
(筆者調査より)

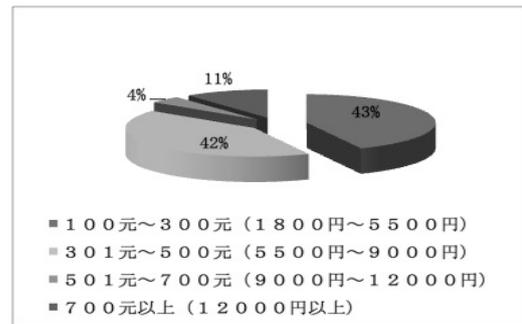


図6 チャイ代の分布
(筆者調査より)

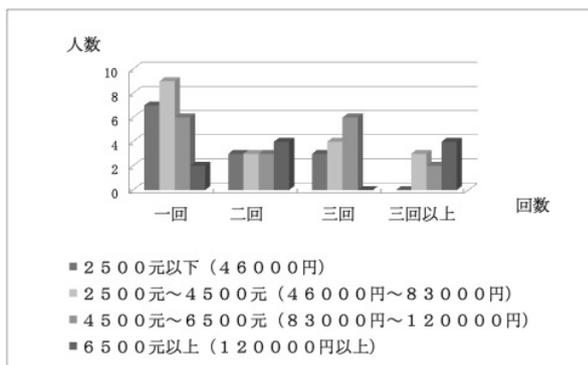


図5 チャイへの参加状況と月収の関係
(筆者調査より)

毎月3回以上チャイに参加している女性はそれほど多くはないが、15%を占めている。それに対して、チャイにまったく参加していないウイグル族女性は2名(3%)だけであった。

ウルムチ市のウイグル族女性たちの収入と、チャイへの参加状況を分析すると、図5のようになる。

調査対象の女性たちの中でチャイに参加している60名の女性たちを、月収の水準によって、4つ(低収入・中収入・中高収入・高収入)の階級に区分してみた。低収入(2500元(4万6千円)以下)の女性たちが13人、中収入(2500元(4万6千円)から4500元(8万3千円)まで)の女性たちが21人、中高収入(4500元(8万3千円)から6500元(12万円)まで)の女性たちが16人、そして高収入(6500元(12万円以上)以上の収入がある女性たちが10人である。収入とチャイへの参加状況をみると、高収入の女性たちほどチャイに参加する回数が多く、月2回、また3回以上の者もあることがわかる。それに対して、低収入の女性たちがチャイに参加する回数は月1回だけのことが多い。中収入・中高収入の女性たちは、月1回の者と、月3回の者が多く存在する。

次にチャイ代について示したのが、図6のグラフである。

このグラフから見ると、毎月のチャイ代は、一般的に、

100元から300元(1800円から5500円)、また300元から500元(5500円から9000円)という場合がもっとも多い。

調査では、チャイに参加している目的も尋ねた。それによると、まず友達に会うためであり、楽しみであるという目的を挙げた人が31人である。次に、人間関係を作る、人間関係を続けるためという回答が19人だった。そして、まとまったお金が一時に手に入るということという回答が10人である。チャイ代は、その月のホストのところに集まるので、1年に1回程度かなりの金額の現金が手に入るという「講」のような役割も果たしていることがうかがえる²⁾。

2. チャイとジェンダー

現代のウイグル族都市社会では、チャイというときに、「女性らしい・女性っぽい」というイメージが強く存在している。

チャイに参加している男女の割合について、現在のチャイについて詳しく知っている年配の婦人に尋ねてみた。具体的な男女割合のデータはないが、おおよそ女性だけのチャイが3分の2で、他の3分の1のうち半分が男女チャイ、残りの半分が男性チャイではないかということだった。

ウルムチ市に住むウイグル女性たちには、働いて収入を得ている女性たちと専業主婦がいる、働いている女性たちは自らの現金収入があるが、経済的に余裕がある人もいるし、ない人もいる。それによって、チャイに使うお金は異なる。専業主婦の場合は、ほとんど夫からの支援がある。

これに対し、男性はどのようにチャイに参加しているのだろうか。筆者が調査したウルムチ市の30名の男性のチャイへの参加状況³⁾は、図7のとおりである。

その結果、調査対象の30名の男性の中で、半数近い14名がチャイにまったく参加していなかった。男性のチャイへの参加率は、女性に比べかなり低く、チャイに参加しても、毎月1回だけという場合が多い。1つだけのチ

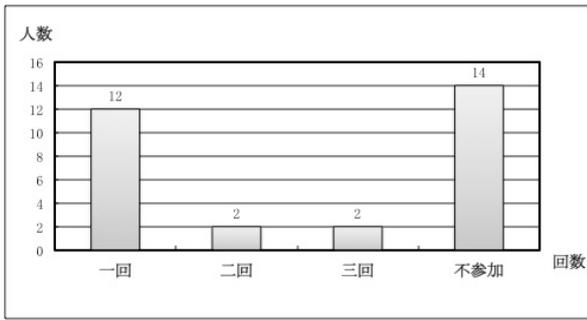


図7 男性のチャイ参加回数 (月平均)

(筆者調査より)

チャイに参加しているのが12人であり、2つのチャイに参加しているのが2人で、3つのチャイに参加しているのは2人である。

一方、今回の調査からは、男性は女性のチャイに参加している行為を「理解」していることがうかがえた。聞き取りによれば、女性がチャイに参加するために、家事を一時的に止めて外に出たり、自分らの場所を作ったりすることに対して、理解を示す男性が多かったからである。ただし、家事を行なうのは女性であるという、ウイグル族の基本的なジェンダー規範は変わっていない。

なぜ女性は男性よりチャイに多く参加しているのだろうか。その理由として、筆者が女性たちに聞き取りをして得られた答えは、以下のようなものだった。男性は自由であり、「外」に出たい時に自由に出られる。これに対し、女性は家事や育児等で、家の「内」にいる時間が多くて、「外」に自由に出られる時間が少ない。すなわちウイグル族社会では「男外女内」状態が強く存在する。こうした中で、女性たちには「外」に出て、友達に会って、女性の間で交流したいという欲求がある。それによって解放され、家の中で溜まっているストレスも発散でき、健康もよくなると考えている女性が多い。チャイはこうした女性たちに、貴重な外出と交流の機会を与えているのである。

VI チャイと社会関係資本——「優しいお母さんたちの会」の例

チャイが社会関係資本を生み出した例として代表的なものが、「優しいお母さんたち」(mihiriban ana) というグループの存在である。以下では、これについて、詳しく紹介したい。

この「優しいお母さんたち」はチャイから作られた女性グループで、1989年に30名のウイグル族女性が、ウルムチ市でチャイをやり始め、すでに20年以上経つ。このチャイグループは同郷者のチャイで、9割は学校の教員である。彼女たちはずっと自分たちの間で、誰かが結婚

式をやるときに援助したり、お互いに必要なものを買ってあげたり、様々な相互扶助をやってきた。彼女たちのチャイグループでは、特定のホストはおらず、チャイ代を一人50元(1000円)ずつ集めて、チャイのメンバー以外に対しても、支援をするという形で続けてきた。20年以上の活動期間の間に、この「優しいお母さんたち」の会は、ウルムチ市だけではなく、新疆ウイグル自治区の20地区の、小学生から大学生まで千人以上の子供に支援を行なってきた。特に社会教育のため、大きな貢献をしてきた。「優しいお母さんたち」という呼び名は、支援を受けた子供たちから彼女たちに与えられたものである。

「優しいお母さんたち」の会を創設した30名の女性メンバーの中で、現在では6人が亡くなり、24人が残っている。年齢は、現在では70歳から84歳までの女性たちである。ウルムチ市で生まれたこの「優しいお母さんたち」という30名の女性チャイグループの影響は、現在では新疆ウイグル自治区全体に波及している。現在、新疆ウイグル自治区では、同様の活動をする「優しいお母さんたち」が3万5千人にまで拡大している。メンバーにはいろいろな職場の女性が見られるが、これらは皆「優しいお母さんたち」と呼ばれ、それぞれに活動している。

2001年には、「優しいお母さんたち」は、新疆ウイグル自治区民政局に公認された。集めたお金の管理、学校の情報収集など、各地区における優しいお母さんグループの代表者が集まり、組織的に行なわれるようになっていく。

VII 総括

最後に本研究から見えてきたものとして、このチャイの社会的意味について論じたい。

現在、ウルムチ市で隆盛しているチャイは、ウイグル族社会伝統文化の発展したものといえる。昔のチャイから現在のチャイまで、様々な変化があったが、コミュニケーションとネットワークを重んじる伝統文化の骨子は変わっていない。ウルムチ市では、「チャイ」が、家でもなく、職場でもないが、よく行っている「第三の場所」になっている。調査した結果から見ると、62人の中に、60人が家と職場以外にチャイに参加し、楽しんでいる。ウイグル族都市社会における第三の場所としてのチャイは、単にリラックスする場所というだけではなく、さまざまな社会的意味をもっていると考えられる。

まず第1に、チャイには、グローバル化する現代社会の中で、ウイグル文化を継承しつつ、新たなセーフティネットを構築する「場所」を提供するという意義がある。

もともとウイグル民族の文化には「相互扶助」という習慣が存在したが、変容・流動性の激しい都市社会の中では、こうした共同性を維持することは難しく、家族や個人が孤立し、分断されやすい。しかし、チャイという場所を通じ、定期的に関係性が継続・更新されることで、人々は不慮の事態に備えるネットワークを構築することができる。グローバル化や、生活様式の都市化・近代化が進んでいく中で、貧富の格差が拡大している。現代のウイグル族都市社会の現状では、ウイグル社会内部の貧富の格差も発生し、貧困者・弱者への支援、相互扶助の必要性もどんどん増えている。本研究で焦点を当てた、「優しいお母さんたち」というチャイから作られた貧困者・弱者支援の関係に代表されるように、チャイがセーフティネットを提供することの意義は大きい。

また第2に、多くの（特に低収入の）人が、まとまったお金が一時に手に入るの機会としてチャイを捉えていることも見逃せない。チャイをホストすることで、1年に1回、まとまったお金を一時に手に入れることができる。これは、人間関係に支えられた文字通りの「信用」(credit)といえるかもしれない。

第3に、チャイがとりわけ女性との結びつきが強い理由としては、現代のウイグル族都市社会におけるジェンダー関係の変容がある。そこには3つの要因がある。第1に、女性の経済機会の拡大（現金収入の増大）である。これが会費の支払いをとともなうチャイへの参加の必要条件であることは言うまでもない。第2に、女性の地位も向上し、女性の経済力が拡大することで、女性間の交流と情報への欲求が強くなっていることである。第3に、家以外の「第三の場所」においてチャイが行なわれる背景には、伝統的なジェンダー分業（男性＝外での生産労働、女性＝家事・再生産労働）への反発とその変化への承認（女性がチャイのための労働を負担しなくて済むこと）も存在するといえる。つまり女性の力がいくら強くなったと言っても、男性と同じように外出の自由を獲得したわけではない。チャイに参加することは、女性たちに対して公認される、一つの外に出る機会として、より自由を与えているのである。このようにチャイは、現代社会において変化しつつある女性のジェンダー的地位の産物でもあると言える。

社会関係資本は、相互作用の中で生まれる集団的な人間関係に基づくものであり、その人間関係を有効な資本として「蓄積」するためには、個人としても、また、共同体としても、日常的な創造行為が必要になっている。こうした創造行為は、人と人、あるいは人と場所の相互作用の中で育まれるものだと言える、チャイは、こうし

た相互関係を実践する場所を提供するものであり、それを通じて、社会関係資本が蓄積していくと考える。

人間関係を構築し、情報を交換する場所をもつことは、人々にとって流動性の激しい現代社会の中で重要で貴重な資源となる。現代のウイグル族都市社会におけるチャイは、ウイグル族にとって「第三の場所」であり、また変動する都市社会を生きていく上で必要な「社会関係資本」構築の機会となっているのである。

謝辞 本稿は2016年度にお茶の水女子大学大学院博士前期課程地理環境学コースに提出した修士論文の一部を編集・修正したものです。本研究の一部は、2016年7月30日、東京農業大学で開催された経済地理学会関東支部例会で報告しました。当日貴重なコメントをお寄せいただいた関係者・参加者の皆様に感謝申し上げます。

この研究を遂行するにあたり、終始適切な助言を賜り、研究に対する姿勢や論文の書き方について、一からご指導くださった指導教授、熊谷圭知先生には、どれほど言葉をつくしても感謝の気持ちを十分に表すことはできないほど、お世話になりました。また、副指導教員である荒木美奈子先生には、ご指導、ご意見を賜りました。ここに感謝申し上げます。そして、地理環境学コースの諸先生に、数々のご指導、ご助力を賜りました。本当にありがとうございました。地図の作成にあたっては、中基由佳里先生にご協力とご助言をいただきました。お礼を申し上げます。

さらに、本研究の趣旨を理解し快く協力して頂いた、調査対象地区の調査対象者の皆様に心から感謝します。最後に、遠くウルムチより祈り続けてくれた両親に、心より感謝したいと思います。

注

- 1) 現在のウルムチ市には、ウイグル族風のレストラン、またはウイグル族風の宴会場が10ほどあり、それらは普通のレストランとは大分異なる雰囲気を持っている。室内の調度や装飾においてウイグル族文化が強く反映された宴会場は、ウルムチ市の中で、ウイグル族らしさを演出する独特の場所とも言える。
- 2) ジャカルタの女性露天商を調査した、オーストラリアの地理学者マレー（1994）は、アリサンと呼ばれる講が、女性たちのネットワークを作るうえで大きな役割を果たしていることを指摘している。
- 3) 30名のうち、10名の男性には対面での質問紙調査を行ない、その他の20名の男性には電子メールなどを通じて行なった。

文献

- 磯村英一 1968. 『人間にとって都市とは何か』日本放送出版協会.
- オルデンバーグ, レイ著, 忠平美幸訳 2013. 『サードプレイス—コミュニティの核になる「とびきり居心地よい場所」』みすず書房.
- 佐藤 寛 編 2001. 『援助と社会関係資本—ソーシャル・キャピタル論の可能性』日本貿易振興会アジア経済研究所.
- 新疆統計年鑑 2001. 中国統計出版社.
- 新疆統計年鑑 2014. 中国統計出版社.
- 新疆ウイグル自治区ウルムチ市地図標準画法示意图 2016(134号) 中国新疆ウイグル自治区測繪地理情報局.
- 中華人民共和国分省地図集 1977. 中国北京地図出版社.
- パトナム, ロバート・D. 著, 河田潤一訳 2001. 『哲学する民主主義—伝統と改革の市民的構造』NTT出版.
- マレー, アリソン著, 熊谷圭知・内藤耕・葉倩瑋訳 1994. 『ノーマネー, ノーハネー—ジャカルタの女露天商と売春婦たち』木犀社.
- 宮坂靖子, 服部範子 2004. 中国・新疆ウイグル自治区におけるウイグル族の家族・世帯とライフ コース —イーニン市におけるケース・スタディー. 家政学研究 50(2): 163-169.
- Oldenburg, R. 1989. *The Great Good Place: Cafés, Coffee Shops, Bookstores, Bars, Hair Salons and Other Hangouts at the Heart of a Community*. New York, Da Capo Press.
-
- シャチクリ・メルシャト
博士後期課程ジェンダー学際研究専攻

The Social Meaning of “Chay” in Urumqi: “Third Place” and Social Capital Perspectives

MIERXIATI, Xiatiguli (Graduate Student, Ochanomizu University)